

令和3年度

学校評価報告書

Ⅰ 令和3年度 学校教育目標および重点目標・教育課題

学習者になる 自律した 教育目標	教育課題 「対話の質を高めること」
	重点1 学びづくり 知恵を出し合わなければ乗り越えられない必要性・切実感のある問題・課題により対話を活性化する。
	重点2 関係づくり 生徒一人ひとりのよさを認める教師の評価をモデルとして、生徒間に生産的な人間関係を構築する。
	重点3 学校づくり ミッション探索カードを活用した教頭との懇談を通して、職員が仁科台中学校における使命と課題を明らかにする。

Ⅱ 本年度の「成果と課題」および令和4年度に向けての「向上策・改善策」

	成果と課題	向上策・改善策
重点1 学びづくり	対話を基盤とした授業スタイルが定着し、職員も生徒も協働的な学びのよさを実感しながら授業に向かっている。授業の様子や生徒の変容の姿などを積極的に保護者・地域の皆さんにお知らせし、更に理解していただく必要性を感じる。	教科ごとで、対話を活性化するための問いを追究することはできてきているので、教科横断的なカリキュラム・マネジメントに向けてLCの充実や、村瀬先生をお招きした授業クリニックの継続をしていく。
重点2 関係づくり	自分自身を厳しくみつめる様子はこれまでとあまり変化はないが、周囲から認められていると実感している割合が高くなっていることから、我々教師が「傾聴と愛語」の姿勢を機会あるごとに生徒に示していくことを心がけていきたい。	キャリア・パスポートの更なる有効活用を、近隣の情報も収集しながら、学校全体で取り組んでいく。 相談の時間を定期的に設定し、生徒と向き合う時間を大切にしていく。
重点3 学校づくり	今年度初めてガイドラインを作成し、これまで曖昧だった目指す方向を全職員で明確にしあうことができた。それぞれの職員が自分自身の取り組みを聴き合ったり、情報共有したりする機会をさらに増やしたい。	来年度のガイドラインがさらに充実したものにするために、本年度の取り組みについて総括を行う。 新たに赴任した職員に本校の目指す方向が明確となるよう、年度初めの研修の機会を設定する。

Ⅲ 令和3年度学校運営についての総合評価

大町市立仁科台中学校 興 幸雄

【総合評価】

本校は昨年度より、教育目標を「自律した学習者になる」としました。「自律した学習者」とは、自己との対話（振り返り）によって自分の行動を律することができる生徒の姿です。

そこで、自律した学習者の姿を自己調整学習力、論理的思考力、自己有用感から目指す生徒像として明らかにし、それらを育成するための教育課程研究に着手し、これらの3つの資質・能力を高めるために「学びづくり」と「関係づくり」を重点にして取り組んできました。

今年度は、「対話の質を高めること」を教育課題として、7月に麻布教育研究所の村瀬正胤先生からご指導をいただき、クエスチョン型の学習問題から、生徒の主体的な学びにつなげようと研究をしてきました。

2学期には、異教科・異学年の研究グループである、ラーニング・コミュニティ（LC）を立ち上げ、月に1、2回集まり、「学習問題」や「単元を貫く問い」について研修を重ねてきました。

対話を基盤とした授業を大町市の進める協働の学びにシフトチェンジして取り組み、次第に職員や生徒に浸透してきた様子がうかがえます。

【学校評価から見える課題と方向】

過日行われました生徒による2学期の学校評価アンケートについて触れますと、次の授業に関する質問に対して、「そう思う」「だいたいそう思う」という回答が1学期に比べて増えていました。

- ・話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広めたりしている。
- ・筋道立てて考えたり、気づいたことを適切に伝えたりしている。
- ・自分にはよいところがある。
- ・自分で計画を立てて、自分に必要な課題を家庭学習で取り組んでいる。

これらの質問項目は、本校が目指す、自己調整学習力・論理的思考力・自己有用感につながるものです。生徒のみなさん、先生方の取組に感謝を申し上げます。

今回、学年ごとに様子をみると、印象に残ったことがありました。それは、3年生の以下の質問項目の回答です。

- ・授業で「わからない」「できない」ことは仲間に聞いて解決しようとしている。
 - ・仲間のよさを理解し、思いやりをもって接することができる。
- この2つは、肯定的な回答が98.8%、97.6%と、とても高い回答でした。

また、次の項目はいずれも90%を超えていました。

- ・「わかった」「できた」と感じる授業が多い。
- ・話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広めたりしている。
- ・学校や学級で、安心して生活できている。
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると感じている。
- ・お家の人は自分のよいところを認めてくれていると感じる。

これは、本校で力を入れている「学びづくり」と「関係づくり」における3年生の成長として受け止めました。

ほかの質問でもそうですが、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答している生徒の気持ちや思いにも耳を傾け、大事にしていきたいと考えます。

一方で、保護者の方の学校評価アンケートをみますと、お子様の学校生活や家庭学習に関する質問項目の回答結果に課題があることがわかります。

コロナ禍ではありますが、学校としてお子様の状況を保護者の皆様に伝える努力をさらにしていきたいと考えます。

学校が、生徒が安心・安全に過ごすことのできる場となるよう、教育理念の「聴く学校」を合言葉として、より丁寧に対応をしていきたいと考えます。

【今後に向けて】

令和4年度は、歴史ある仁科台中学校を閉じ、新中学校開校に向けた準備の年になります。

第一中学校との共通ガイドラインを作成して、同一步調で学校運営をしてまいります。そのために、教育目標を「自立した学び手になる」とし、聴くことを貫き、学ぶことの意味を実感できる学校文化を築くことにより、大町の中学生に生涯にわたって学び続けていく力をつけることを学校づくりのねらいとします。

授業づくりでは、学習問題や単元を貫く問いの研究を深め、教科横断的な学びを進めます。そのために、PDCAからPDSAを重視し、ラーニング・コミュニティ（LC）を充実させて教師が探究していきます。

新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、地域や保護者の皆様に学校の教育活動に参画していただくようにしていきます。そのために、学校だよりやHPでの発信を充実させ、授業参観や学校に来ていただく機会を大事にしていきます。

IV 令和3年度 学校運営協議会・学校関係者評価

1 学校の重点目標への取り組み状況への評価・意見

アンケート結果などを見ても子どもたちと保護者では受け止め方や評価に違いがある。保護者の経験した中学時代と今では、特に学びにおいて変化が大きいので、保護者への周知を丁寧に行っていくことが必要である。

学校での活動の様子をもっと発信してほしい。ホームページや大糸タイムスの取材などは充実しているが、他のメディアにも広げてほしい。

コロナ禍の今は難しいが、地域の施設の清掃や保育園での草取りなど地域とのつながりを大切にしていってほしい。また、横のつながりだけでなく、縦のつながりが現在不足しているように思われるので、そのような機会を地域と協力して設定していきたい。

生徒アンケートにある「自分はよいところがある」の21.4%をどうにか引き上げられるようにしたい。そのためにも、自己有用感については、幼少期から考えていかなければならないと思うので、家庭や地域は勿論のこと、小学校や保育園との連携を模索していってほしい。

2 自己評価への評価

年に数回のアンケートを実施し、その数値結果を根拠として評価していることは妥当であると考え。また、学期での比較や昨年度との比較などもあり、子どもたちや先生方の意識が向上していることがよくわかる。肯定的な回答が増えてきていることはとてもいいことであるが、否定的な回答が存在することも事実であるので、そちらにも注目して、それに対する改善の取り組みを具体的に考え、学校全体で進めていくことが、さらにアンケートの結果が向上することにつながると思う。

コロナ禍のため、学校にお邪魔して生徒たちの様子を見させていただく機会が少なく、その姿と照らし合わせてアンケート結果などを考察することができないのが残念である。

学校運営協議会としても、コロナ禍の様々な制約の中、ご尽力くださっている先生方に敬意を表するとともに、子どもたちの健全な成長のために、できる限りの協力をしていきたいと考える。

また、5年度に計画されている学校再編に関しても、お力添えができればと考えている。

大町市立仁科台中学校 学校運営協議会

会長 有賀 奨